

遺愛学院創基150周年記念式典が 無事終了しました。

9月28日（土）10:00より遺愛アリーナで、ご来賓、同窓生、生徒、保護者、教職員あわせて1,500名以上の出席のもと、記念式典が執り行われました。

式は井上教頭進行による礼拝形式で行われ、中学ハンドベルクワイア（水田教諭指揮）の「I Need Thee Every Hour」前奏、讃美歌79番、百武宗教主任の聖書拝読、井本教頭の祈祷、聖歌隊の「Beautiful Savior」合唱（白須教諭指揮）、福島理事長式辞、讃美歌343番:創基者FBハリス作詞（54年版讃美歌）、生徒代表秋山紗輝さんによる「慶びの言葉」、ハンドベル「希望の風」演奏、讃美歌234番A、校歌、頌栄541番、百武宗教主任の祝祷、ピアノ後奏（水田教諭）で式が終了しました。

次に5人の方の祝辞（在札幌米国総領事館ハフナー領事、キリスト教学校教育同盟を代表して北星学園古川敬康理事長、北海道私立中高協会を代表して西岡憲廣会長、佐々木同窓会長、荒木PTA会長）をいただきました。ハフナー米国領事に祝辞をお願いしたのは、創基に関わったMCハリス宣教師が当時米国領事を兼任しており、近年も札幌米国総領事館領事が代わるたびにわざわざ遺愛を訪ねて下さり、生徒と良き交流をして下さるためでした。また、西岡北海道私立中高協会会長は、お母様が遺愛女学校出身で、遺愛が今のセーラー服を制服として採用したときに写真（左下1930年撮影）のモデルになった3人の遺愛生の1人（写真右側の方です。）でした。

最後に遺愛吹奏楽局（高久教諭指揮）の演奏①プロローグワン②Funky Hens～エンディングで式典を閉じました。ハンドベル、聖歌隊、吹奏楽局の演奏がとても素晴らしく、出席者から「感動し、涙が出ました。」というお褒めの言葉をたくさん頂戴しました。

これからも主の良き導きを信じ、創基200周年に向けて、希望をもって歩いていきたいと改めて決意しました。

2024年10月5日



遺愛本館



ハンドベル演奏



聖歌隊合唱



慶びの言葉



ハフナー領事



古川理事長



西岡理事長



佐々木同窓会長



荒木PTA会長



福島理事長